

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

## CS だより“未来への教育を考える特別号”

KOMIKOMISUKUSUKU  
明石市教育委員会事務局学校教育課



TwitterQR

未来への教育を考える特別号

No.1 2021.1.18

### 未来を創る子どもたちに「生きる力」の実現を！

2021 年が始まりました。2020 年はコロナによって私たちは「先が見えない・正解のない世界」を実感し、社会が一気に変化するのを目の当たりにさせられた年だったのではと思います。コロナによって開けられた扉の向こうにはどんな未来が待っているのでしょうか。そんな今だからこそ過去から学び、100 年先を見通して、この 10 年、この 20 年の教育を考えていく必要があると考えます。過去を考えるにあたり、初めて「生きる力」が盛り込まれた 1996 年の中央教育審議会第一次答申が参考になると思います。また、未来を想像するために人口推移推計から社会の変化をみることができるのではと考えます。その 2 つを手掛かりにしながら、未来を創り、未来を生きていく子どもたちに必要な資質・能力を確実に身につけていく学びのデザインを皆さんと一緒に考えていけたらと思います。

そのために「コミコミスクス」の通常号とは別に「コミコミスクス未来の教育を考える特別号」として配信を始めていきたいと考えています。まず、「未来の教育を考える特別号 No.1」ではこの 25 年を振り返り、未来を想像する手掛かりとして「1996 年中央教育審議会第 1 次答申」をご紹介します。

### 1996 年中央教育審議会第 1 次答申より 有馬朗人先生が描いた未来の教育

昨年 12 月に 1996 年中央教育審議会第 1 次答申「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」で、「ゆとり」と「生きる力」を打ち出された中央教育審議会元会長有馬朗人先生がご逝去されました。“科学立国”として日本の未来をえがかれていた有馬朗人先生が亡くなられる数日前のインタビューで教育について「やっぱり国家百年の計ですよ。例えば地球温暖化の問題があります。英知は若者からくみ取らなければなりません。再生可能エネルギーをどう伸ばすのか。原子力が今のままでよいのか。もっと新しい安全な原子力を作るのも、全部これからの若者の英知です。その若者を育てなければ、日本は滅びますよ」と語っておられます。(大越健介の現場主義 NHK 参照)

有馬先生はどのような未来をえがかれて “子供に [生きる力] と [ゆとり] を” と新たな時代の教育への願いを込められたのでしょうか。今、我々が目の当たりにしているような社会をえがかれていたのでしょうか。今、「若者を育てなければ、日本は滅びますよ」が響いてくるのは私だけではないと思います。1996 年当時中堅教諭であった私自身、未来の社会をイメージすることができず、変える・変わるチャンス逃したのではと思います。この 25 年を振り返りながら、またこの先 25 年を見据えながら読んでいただけたらと思います。

#### 中央教育審議会 第一次答申にあたって (原文)

会長 有馬朗人

中央教育審議会は、平成 7 年 4 月、文部大臣から「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」諮問を受けて以来、学校の先生や P T A、専門家の方などから意見を聞いたり、学校訪問をし、先生や子供たちが教育に取り組んでいる姿を見たり、国民からの直接の意見募集などを行いながら話し合いを進め、平成 8 年 7 月、第一次答申を行いました。

我々は、これからの教育の在り方として、[ゆとり]の中で、子供たちに[生きる力]をはぐくむということが大切であると考えました。そのためには、学校・家庭・地域社会が十分に連携し、バランスよく教育に当たることが大変重要です。具体的には、学校の教育内容を厳選するとともに、家庭や地域社会における教育力を高めていくことが必要であるという考えに立ち、様々な提言をしています。学校週5日制についても、このような考え方から、教育改革の一環として、21世紀初頭を目途に完全実施を目指そうと提言しています。また、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題などに対応する新しい教育についても様々な提言を行っています。

この答申で、中央教育審議会として、21世紀の子供たちの教育の在り方を提示しました。しかしながら、この答申で示している教育を実現するためには、行政による努力が重要なことはもちろんですが、その鍵は、保護者の方、学校の先生、地域の人々など、全ての大人たち一人一人の実行にかかっているのです。どうぞ、この答申をよくお読み下さい。そして、答申の趣旨を御理解いただき、それぞれの立場で、子供たちが幸せになるために、子供たちに[生きる力]をはぐくんでいくことができるよう、子供たちの教育のことを真剣に考え、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

21世紀に向け、今日から、国民一人一人が、自分のできることについて、子供たちに[生きる力]をはぐくむための教育に取り組んでいくことを期待しています。

そして次のような6つの答申のポイントがあげられています。

◎これからの教育は[ゆとり]の中で [生きる力]を育成することを大切にします

※[生きる力]とは？

- ・自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力
- ・自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力

◎いじめ・登校拒否の問題への取組が重要です

◎[生きる力]の育成を基本とし、学校は、知識を教え込む教育から、自ら学び、自ら考える教育へと転換し教育内容は厳選します

◎教育の出発点であり、基本的な倫理観を養い、しつけを行う場である家庭の教育力を充実することが必要です

◎社会体験、自然体験などを豊かにするため地域社会における教育を活性化することが必要です

→家庭や学校や地域社会の連携が重要です

◎学校週5日制は完全実施を目指します

今から25年前の1996年中央教育審議会第1次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」で登場した「ゆとり」が、このあと学力低下の原因として非難をあびることになります。

改めて「ゆとり」を考えてみると「主体的、対話的で深い学び」、誰一人取り残さない学び、協働と探究、個別最適化・・・、今求められていることにつながってきます。円周率を「3」として教えるということが当時よく取り上げられましたが、私たちが「ゆとり」を理解しきれなかったのではと思います。この答申が見た未来とはどんな未来だったのでしょうか。

次号では人口推移推計をご紹介しますながら未来を想像してみます。

(文責:北本)

【**文部科学省のホームページで原文を読んでもらいたいです**】

※1996年中教審第1次答申 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chuuou/toushin/960701.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/960701.htm)

※第1次答申パンフ [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chuuou/toushin/960701/960701a.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/960701/960701a.htm)